

【学習問題】
明治維新では、どのような世の中になったのだろう。

★ガス灯は電灯に変わったが、ガスは料理やだんぼう(餅)に使われるようになった。

ガス灯
瓦斯灯 光はあれど おく霜の 白きを見れば 夜ぞ更けにける
瓦斯灯 光を照らす雁 星は消えつつ 物をこそ思へ
瓦斯灯 いまだ開けぬ世の中は 恋しがるべき夜半の月かな
瓦斯灯 光ぞ今は頼みなる 雲かくれにし 夜半の月かな

12/14 ガス灯によって人々の暮らしは町の様子 どのように変わったのだろう

どこで? 東京の中でも 下町(下)だけ

いつ? 明治5年、横浜、明治7年、東京

だれが? フランス人の技師

高島 嘉右衛門 借金した 東京ガス(株)

300近くのガス灯

日本のガス灯に関する出来事

明治5年 (1872年)	横浜に十数基のガス灯が立てられる。この年の終わりに横浜のガス灯はほぼ自給にもなった。
明治7年 (1874年) <td>東京の丸の内から丸の内線にガス灯が立てられる。神田でもガス灯が立てられるが外国人が持ちこんだガス灯だった。</td>	東京の丸の内から丸の内線にガス灯が立てられる。神田でもガス灯が立てられるが外国人が持ちこんだガス灯だった。
明治8年 (1875年) <td>東京のガス灯が増えていく。万葉橋や浅草橋の方まで敷設されていく。</td>	東京のガス灯が増えていく。万葉橋や浅草橋の方まで敷設されていく。
明治9年 (1876年) <td>東京の丸の内線に敷設されている。第1回内閣勅諭で「花火」が禁止された。花火というものは、文字や図をガスの炎で表したイルミネーション。</td>	東京の丸の内線に敷設されている。第1回内閣勅諭で「花火」が禁止された。花火というものは、文字や図をガスの炎で表したイルミネーション。
明治10年 (1877年) <td>ガス灯が海外だけでなく、家の中でも多く使われるようになる。</td>	ガス灯が海外だけでなく、家の中でも多く使われるようになる。
明治13年 (1880年) <td>万葉橋の上野にまでガス灯が敷設されていく。東京のガス灯はほぼ自給を始める。(現在の東京ガス)</td>	万葉橋の上野にまでガス灯が敷設されていく。東京のガス灯はほぼ自給を始める。(現在の東京ガス)
明治14年 (1881年) <td>東京ガス株式会社が設立される。(現在の東京ガス)</td>	東京ガス株式会社が設立される。(現在の東京ガス)
明治18年 (1885年) <td>東京ガス株式会社が設立される。(現在の東京ガス)</td>	東京ガス株式会社が設立される。(現在の東京ガス)
明治22年 (1889年) <td>東京ガスの1目の生産量が1000トンに達する。</td>	東京ガスの1目の生産量が1000トンに達する。
明治27年 (1894年) <td>横浜など他のガス灯でガスが使用される。</td>	横浜など他のガス灯でガスが使用される。
大正4年 (1915年) <td>ガス灯の数がピーク(最も多い時期)になる。この頃、関東大震災で東京のガス灯も壊れる。これにより、ほとんどが明かりが電灯になる。しかし、この後もガス灯は使われていた。</td>	ガス灯の数がピーク(最も多い時期)になる。この頃、関東大震災で東京のガス灯も壊れる。これにより、ほとんどが明かりが電灯になる。しかし、この後もガス灯は使われていた。
大正12年 (1923年) <td></td>	

12/14 問題

ガス灯によって人々の暮らしや町の様子はどのように変わったのだろう

江戸時代までの照明

- ろうそく
- ちょうちん
- あんどん

予想

- 夜でも本を読める
- 夜でも商売
- 夜ふかし
- 夜に歩く人
- 明るくな、仕事

明治時代のガス灯を調べる3つの視点

どこで? 下町(下)だけ

いつ? 明治5年、横浜、明治7年、東京

だれが? 高島嘉右衛門

借金をして横浜や東京にガス灯を立てた

アフリ・プレグラ

フランス人の技師。上海でもガス灯を立てる事業を成功させた。

浅沢栄一

東京ガスの社長。銀行など多くの事業を成し遂げた

1923年 関東大震災 ガスが倒れる!

ほとんど使われなくなっていく

まとめ ガス灯は電灯に変わったが、ガスは料理や暖房(熱)に使われるようになった。

